

母性看護学・助産学分野年報 No.19

Activity Report on Department of Midwifery and Women's Health

**令和 2 年度
2020.4-2021.3**

**東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
母性看護学・助産学分野**

Department of Midwifery and Women's Health,
Division of Health Sciences and Nursing,
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

目 次

1. はじめに	1
2. 研究業績	2
(1) 原著・報告	
(2) 総説・解説など	
(3) 著書・報告書・その他	
(4) 学会発表	
(5) シンポジウム・セミナーなど	
(6) 受賞	
3. 研究活動	6
(1) 抄読会 & 研究報告会	
(2) シフラの会	
(3) 研究プロジェクト	
4. 教育活動	13
(1) 学部講義	
(2) 学部実習	
(3) 大学院講義	
(4) 大学院実習	
(5) 修士論文	
5. 学内外の活動	24
(1) 学内の活動・役割	
(2) 学外の活動・役割	
(3) その他(学内外における講義・講演など)	
6. 教室日誌	27
7. 教室員名簿	29

1. はじめに

令和2年度母性看護学・助産学分野では、修士4名が学位を取得しました。平成14年6月に教室が設置されて以来の学位取得者は、通算で博士14名、修士35名となります。また平成26年4月から開始した修士課程での助産師教育コースでは、6期生となる修了生3名を新人助産師として送り出すことができました。現在も、首都圏では新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下にあります。今年度の助産師教育コースの演習・実習については、5つの受け入れ施設（東大病院、愛育病院、東都文京病院、矢島助産院、みづき助産院、ウパウパハウス岡本助産院）で予定通り実習をさせていただきました。各学生10例の分娩介助を達成することができたのは奇跡のようなことと思っています。実習現場の皆様や教員の後輩助産師を育てることへの熱い思いに、学生の皆さんも体調管理を含めて様々な制約の中で、最大限の努力で演習・実習に臨むことで応えてくれました。母性看護学実習はオンラインと助産院での実習となりましたが、先生方の創意工夫のもと、実習目標が達成できたことは新たな発見でもありました。

修士課程での研究もコロナ禍において計画の変更を余儀なくされましたが、多くの方々のご協力を得て、調査やデータ分析を行い、今後につながる有意義な修士論文の作成と発表をすることができました。あらためて研究ができることの有難さや喜びも感じたことと思います。

4月からは新入生6名と卒論生を迎えます。ウィズコロナの状況はしばらく続きますが、新しいメンバーを迎えて、対面とオンラインを効果的に組み合わせた教育を実施するなど、知恵と工夫によってニューノーマル時代に対応していきたいと思っています。

国内外の研究者・専門家や他領域の方々との連携も進んでいます。先を見据えた研究の推進・成果の発信、学問の構築に向けて更なる努力を続けていきたいと思えます。今後もしもご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和3年3月末日

教室主任 春名めぐみ

2. 研究業績

(1) 原著・報告

Hikita, N., Haruna, M., Matsuzaki, M., Sasagawa, E., Murata, M., Yura, A., & Oidovsuren, O. (2020). Factors associated with hypertension among men in Darkhan-Uul Province, Mongolia: A cross-sectional study. *Asian / Pacific Island Nursing Journal*.

Matsubara, R., Hikita, N., Haruna, M., Sasagawa, E., Yonezawa, K., Maeda, Y., & Ikeda, Y. (2020). Factors Associated with Time Spent Performing Housework/Childcare by Fathers of Children Aged Under 12 Years: A Cross-Sectional Study in Japan. *Asian / Pacific Island Nursing Journal*, 5(3).

Kelleher, M. M., Cro, S., Cornelius, V., Lodrup Carlsen, K. C., Skjerven, H. O., Rehbinder, E. M., Lowe, A. J., Dissanayake, E., Shimojo, N., Yonezawa, K., Ohya, Y., Yamamoto-Hanada, K., Morita, K., Axon, E., Surber, C., Cork, M., Cooke, A., Tran, L., Van Vogt, E., Schmitt, J., Weidinger, S., McClanahan, D., Simpson, E., Duley, L., Askie, L. M., Chalmers, J. R., Williams, H. C., & Boyle, R. J. (2021). Skin care interventions in infants for preventing eczema and food allergy. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, Issue 2. Art. No.: CD013534. DOI: 10.1002/14651858.CD013534.pub2.

Kelleher, M. M., Cro, S., Van Vogt, E., Cornelius, V., Lodrup Carlsen, K. C., Ove Skjerven, H., Rehbinder, E. M., Lowe, A., Dissanayake, E., Shimojo, N., Yonezawa, K., Ohya, Y., Yamamoto-Hanada, K., Morita, K., Cork, M., Cooke, A., Simpson, E. L., McClanahan, D., Weidinger, S., Schmitt, J., Axon, E., Tran, L., Surber, C., Askie, L. M., Duley, L., Chalmers, J. R., Williams, H. C., & Boyle, R. J. (2021). Skincare interventions in infants for preventing eczema and food allergy: A cochrane systematic review and individual participant data meta-analysis. *Clin Exp Allergy*. doi: 10.1111/cea.13847.(Co-publication)

Shimizu, S., Yonezawa, K., Haruna, M., Sasagawa, E., Hikita, N., Minematsu, T., & Sanada, H. (2021). Relationship between the skin barrier function of 2-week old infants after bathing and facial skin problems during the first 6 weeks of life: A prospective observational cohort study. *Japan Journal of Nursing Science*, 2021;e12408.

Suetsugu, Y., Haruna, M., & Kamibeppu, K. (2020). A longitudinal study of bonding failure related to aspects of posttraumatic stress symptoms after childbirth among Japanese mothers. *BMC pregnancy and childbirth*, 20(1), 434.

Haruna, M., & Nishi, D. (2020). Perinatal mental health and COVID-19 in Japan. *Psychiatry and clinical neurosciences*, 74(9), 502–503.

Kita, S., Haruna, M., Matsuzaki, M., & Kamibeppu, K. (2020). Does Antenatal Social Support Affect the Relationships Between Intimate Partner Violence During Pregnancy And Perinatal Mental Health?. *Violence against women*, 26(6-7), 573–589.

International Committee of the Japan Society of Midwifery Education (2017~2018): Tharara-Sasagawa, E., Ota, Y., Matsuzaki, M., Shimpuku, Y., & Oishi, T. (2021) Visualization of midwifery education in 109 countries on a world map: Secondary analysis of the data from the International Confederation of Midwives (ICM). *Journal of Japan Academy of Midwifery* (in press)

横山 萌莉, 春名 めぐみ, 米澤 かおり, 笹川 恵美, 疋田 直子. (2020). 乳幼児のおむつ皮膚炎の有病率とその関連要因に関する文献レビュー. *日本助産学会誌*, 34(2), 194-203.

中西愛海, 米澤かおり, 春名めぐみ, 笹川恵美, 疋田直子. (2020). 乳児の皮膚トラブルの評価項目に関する文献レビュー. *日本助産学会誌*. Accepted

笹川恵美, 春名めぐみ, 三砂ちづる. (2021). ラテンアメリカにおける出産のヒューマンニゼーション：助産ケアの法令化. *日本助産学会誌*. accepted

(2) 総説・解説など

米澤かおり (2020). 沐浴指導 (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第3回) . *臨床助産ケア*, 12(2), 54-56.

米澤かおり (2020). あせも (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第4回) . *臨床助産ケア*, 12(4), 86-89.

米澤かおり (2020). 顔の皮膚トラブル (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第5回) . *臨床助産ケア*, 12(5), 82-85.

米澤かおり (2020). おむつかぶれ (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第6回) . *臨床助産ケア*, 12(6), 75-78.

米澤かおり (2021). アトピー性皮膚炎 (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第7回) . *臨床助産ケア*, 13(1), 79-82.

米澤かおり (2021). 赤ちゃんのスキンケア指導で気を付けたいこと (連載 赤ちゃんの皮膚トラブルとスキンケアの最新エビデンス 第8回) . *臨床助産ケア*, 2021:13(2): 61-64.

米澤かおり (2020). 【THE 新生児の皮膚ケア トラブル予防知識のアップデート】オムツかぶれ(オムツ皮膚炎)の予防. with NEO, 33(6), 849-856.

米澤かおり (2020). 乳幼児のアレルギー 保健師・助産師ができるアレルギーに関する支援 月刊母子保健. 740; 8.

笹川恵美, 米澤かおり, 臼井由利子, 春名めぐみ. (2021). 新型コロナウイルス感染症流行下における東京大学大学院の助産師教育の取り組み. 東京母性衛生学会誌 37(1):8-12.

(3) 著書・報告書・その他

春名めぐみ, 吉田穂波 (2020). あかちゃんとママを守る防災ノート. 日本家族計画協会

我部山キヨ子ら (編) 春名めぐみ, 米澤かおり他執筆 (2021). 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期. 医学書院

三砂ちづる (編), 笹川恵美, 春名めぐみ 他執筆 (2021). 科学的根拠から考える助産の本質. 南山堂

分娩期ケアガイドライン翻訳チーム: 飯村ブレット, 古宇田千恵, 笹川恵美 他翻訳 (2021). WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア. 医学書院

笹川恵美 他 (監修) (2020). 看護師看護学生のためのレビューブック 2021 第 22 版, 母性看護学. メディックメディア

笹川恵美 他 (監修) (2020). クエスチョン・バンク 看護師国家試験問題解説 2021 第 21 版. 母性看護学. メディックメディア

株式会社ティーエーネットワークワーキング, 合同会社サマウーマ・コンサルティング: 持田敬司, 定森徹, 三砂ちづる, 笹川恵美, 鈴木美保. (2021). 国際協力機構 (JICA) 「人間的なお産」の実現に向けたケアの質改善に関するプロジェクト研究, 業務完了報告書

米澤かおり (2020). 巻頭言 論文投稿のすすめ. 日本助産学会誌, 34(2), 131-132.

米澤かおり, 春名めぐみ, (中西愛海)
2018 年度日本助産学会研究助成金 (若手研究助成) 研究報告書
「乳児の顔の皮膚アセスメントツールの開発と信頼性・妥当性の検証」

(4) 学会発表

笹川恵美, 春名めぐみ, 三砂ちづる. 法令化による国際技術協力プロジェクトの持続可能性: ラテンアメリカの出産のヒューマニゼーションを例に. 第 85 回日本健康学会. Web 学会. 2020 年 12 月 5~6 日.

米澤かおり, 清水咲月, 春名めぐみ. 皮膚常在菌叢と皮膚バリア機能が新生児の顔の皮膚トラブルに与える影響. 第 40 回日本看護科学学会学術集会. Web 学会. 2020 年 12 月 12~13 日. (JANS 大会賞受賞)

篠原 枝里子, 大橋 優紀子, 羽田 彩子, 臼井 由利子. 動画教材を用いた周産期看護に従事する看護職に対する心理支援教育の効果. 第 40 回日本看護科学学会学術集会. Web 学会. 2020 年 12 月 12~13 日.

笹川恵美, 春名めぐみ, 三砂ちづる. 助産ケアの法令化: ラテンアメリカにおける出産のヒューマニゼーションを例として. 第 35 回日本国際保健医療学会学術大会 Web 学会. 2021 年 3 月 20~21 日.

米澤かおり, 春名めぐみ. 妊娠中のアレルギー症状の重症度と心理面の関連. 第 35 回日本助産学会学術大会 Web 学会. 2021 年 3 月 20~21 日.

(5) シンポジウム・セミナーなど

米澤かおり (講師)

「私はどのようにして進路を決めたか」
進学選択シンポジウム第 31 回 (2020 年度)
東京大学教養学部進学情報センター
2020 年 4 月 20 日 (Web 開催)

春名めぐみ (講師)

妊娠期から授乳期における栄養 1
第 44 回日本女性栄養・代謝学会学術集会
CLOCMiP® レベルⅢ認証研修
2020 年 9 月 3 日 (Web 開催)

栗田佳代子, 春名めぐみ, 米澤かおり, 笹川恵美, 臼井由利子.

2020 年 全国助産師教育協議会 東京地区研修会「オンライン演習や実習で使える方法・ツールを知ろう」
2020 年 9 月 12 日 (Web 開催)

宮下光令, 河野あゆみ, 春名めぐみ. (シンポジスト)

JANS 和文誌に修士論文・博士論文を載せよう!
第 40 回日本看護科学学会学術集会交流集会
2020 年 12 月 12 日 (Web 開催)

米澤かおり, 藤本明洋 (講師)

東京大学オープンキャンパス (動画公開) 模擬講義「アトピーから考える皮膚の健康」
対象: 高校生など
2021 年 1 月 6~19 日

笹川恵美 (コメンテーター)

倫理文化研究センターシンポジウム Overall theme -心と体-
2020 年 11 月 6~7 日

笹川恵美 (パネリスト)

第 27 回ヘルスリサーチフォーラム及び 2020 年度研究助成贈呈式：AI 時代のヘルスリサーチ. Web 開催. 2020 年 12 月 12 日

大橋優紀子, 松長麻美, 篠原枝里子, 羽田彩子, 八巻和子, 石橋みちる, 馬場香里, 山本真実, 山田露子, 竹形みずき, 臼井由利子, 鈴木大地
周産期メンタルヘルス発 エビデンスに基づく心理支援を看護臨床に
第 40 回日本看護科学学会学術集会交流集会
2020 年 12 月 12 日 (Web 開催)

笹川恵美 (ホスト), 春名めぐみ, 三砂ちづる, 他. (スピーカー)

「科学的根拠から考える助産の本質」を語ろう！ 第 35 回日本国際保健医療学会学術大会 Web 学会, ミッドワイフカフェ (自由集会). 2021 年 3 月 20~21 日.

(6) 受賞

米澤 かおり, 清水 咲月, 春名 めぐみ. 皮膚常在菌叢と皮膚バリア機能が新生児の顔の皮膚トラブルに与える影響. 第 40 回日本看護科学学会学術集会. Web 学会. 2020 年 12 月 12~13 日. (JANS 大会賞受賞)

3. 研究活動

(1) 抄読会 & 研究報告会 (毎週火曜日)

令和 2 年度、抄読会において紹介された文献および紹介者は以下の通りである。

前期 2020.4/7~7/14, 後期 2020.9/8~2021.3/3

月 日	担 当	内 容
4 月 7 日	抄読会係 春名めぐみ 笹川恵美	抄読会オリエンテーション 研究報告 研究報告
4 月 14 日	西原菜帆 村上芽生 米澤かおり 臼井由利子	Mitsuda, N., Eitoku, M., Yamasaki, K., Sakaguchi, M., Yasumitsu-Lovell, K., Maeda, N., Fujieda, M., Sukanuma, N., & Japan Environment & Children's Study (JECS) Group (2018). Nausea and vomiting during pregnancy associated with lower incidence of preterm births: the Japan Environment and Children's Study (JECS). <i>BMC pregnancy and childbirth</i> , 18(1), 268. (クリティーク 田口) 修士論文進捗報告 研究報告 研究報告
4 月 21 日	田中萌子	Blaauw, J., Smit, A. J., van Pampus, M. G., van Doormaal, J. J., Aarnoudse, J. G., Rakhorst, G., & Graaff, R. (2006). Skin autofluorescence, a marker of advanced glycation end products and oxidative stress, is increased in recently preeclamptic women. <i>American Journal of Obstetrics and Gynecology</i> , 195(3), 717-722. (クリティーク

		中野)
	田口菜々子	修士論文進捗報告
	清水咲月	博士論文進捗報告
4月28日	富田綾	Brimdyr, K., Cadwell, K., Widström, A. M., Svensson, K., Neumann, M., Hart, E. A., Harrington, S., & Phillips, R. (2015). The Association Between Common Labor Drugs and Suckling When Skin-to-Skin During the First Hour After Birth. <i>Birth</i> , 42(4), 319–328. (クリティーク 浅井)
	田中萌子	修士論文進捗報告
5月12日	丹家歩	Sigfridur Inga Karlsdottir, Herdis Sveinsdottir, Hildur Kristjansdottir, Thor Aspelund, & Olof Asta Olafsdottir. (2018). Predictors of women's positive childbirth pain experience: Findings from an Icelandic national study. <i>Women and Birth</i> , 31, e178–e184. (クリティーク 清水)
	中野恵子	修士論文進捗報告
	浅井百合絵	博士論文進捗報告
5月19日	山本祭	Hoang, Thi Tran., Priya Mannava, John C.S., Murray, Howard L. Sobel <i>et al.</i> (2018). Early Essential Newborn Care Is Associated With Reduced Adverse Neonatal Outcomes in a Tertiary Hospital in Da Nang, Viet Nam: A Pre-Post-Intervention Study. <i>E Clinical Medicine</i> , 6, 51–58. (クリティーク 臼井)
	井上璃子	博士論文計画
	西原菜帆	修士論文進捗報告
5月26日	三瓶頼子	Jenny Y. Mei, Yalda Afshar, Kimberly D. Gregory, Sarah J. Kilpatrick, & Tania F. Esakoff. (2016). Birth Plans: What Matters for Birth Experience Satisfaction. <i>Birth</i> , 43:2 (クリティーク 米澤)
	若林南奈	修士論文相談
	丹家歩	修士論文相談
6月2日	城戸真和子	Sally K Tracy, Donna L Hartz, Mark B Tracy, Jyai Allen, & Sue Kildea <i>et al.</i> (2013). Caseload midwifery care versus standard maternity care for women of any risk: M@NGO, a randomised controlled trial. <i>Lancet</i> , 382, 1723–32 (クリティーク 笹川)
	富田綾	修士論文相談
	山本祭	修士論文相談
6月9日	若林南奈	Ogawa, K., Matsushima, S., Urayama, K., Kikuchi, N., Nakamura, N., Tanigaki, S. <i>et al.</i> (2019). Association between adolescent pregnancy and adverse birth outcomes, a multicenter cross sectional Japanese study. <i>Scientific Reports</i> , 9, 2365 (クリティーク 春名)
	三瓶頼子	修士論文相談
	井上璃子	論文相談
6月16日	清水咲月	Fukuie T, Yasuoka R, Fujiyama T, Sakabe JI, Taguchi T, Tokura Y. (2019). Palmar hyperlinearity in early childhood atopic dermatitis is associated with filaggrin mutation and sensitization to egg. <i>Pediatr Dermatol.</i> 36(2), 213-218. (クリティーク 富田)
	城戸真和子	修士論文相談
	村上芽生	修士論文進捗報告
6月23日	村上芽生	Chalmers JR, Haines RH, Bradshaw LE, et al. (2020). Daily emollient during infancy for prevention of eczema: the BEEP randomised

	田口菜々子 井上璃子	controlled trial. <i>Lancet</i> . 395(10228), 962-972. (クリティーク 山本) 修士論文進捗報告 Ulfssdottir H, Nissen E, Ryding EL, Lund-Egloff D, Wiberg-Itzel E. (2014). The association between labour variables and primiparous women's experience of childbirth; a prospective cohort study. <i>BMC Pregnancy Childbirth</i> , 14, 208. (クリティーク 丹家)
6月30日	中野恵子 西原菜帆	Gontijo, C. A., Cabral, B., Balieiro, L., Teixeira, G. P., Fahmy, W. M., Maia, Y., & Crispim, C. A. (2019). Time-related eating patterns and chronotype are associated with diet quality in pregnant women. <i>Chronobiology international</i> , 36(1), 75-84. (クリティーク 若林) 修士論文進捗報告
7月7日	田口菜々子 中野恵子	Danilack, V. A., Dore, D. D., Triche, E. W., Muri, J. H., Phipps, M. G., & Savitz, D. A. (2016). The effect of labour induction on the risk of caesarean delivery: using propensity scores to control confounding by indication. <i>BJOG : an international journal of obstetrics and gynaecology</i> , 123(9), 1521-1529. (クリティーク三瓶) 修士論文進捗報告
7月14日	井上璃子 田中萌子	Logtenberg, S., Verhoeven, C. J., Oude Rengerink, K., Sluijs, A. M., Freeman, L. M., Schellevis, F. G., & Mol, B. W. (2018). Pharmacological pain relief and fear of childbirth in low risk women; secondary analysis of the RAVEL study. <i>BMC pregnancy and childbirth</i> , 18(1), 347. (クリティーク 城戸) 修士論文進捗報告
9月8日	山本祭 三瓶頼子 浅井百合絵	Nordahl, D., Rognmo, K., Bohne, A., Landsem, I. P., Moe, V., Wang, C., & Høifødt, R. S. (2020). Adult attachment style and maternal-infant bonding: the indirect path of parenting stress. <i>BMC psychology</i> , 8(1), 58. (クリティーク中野) 修士論文相談 博士論文進捗報告
9月15日	若林南奈 城戸真和子 田口菜々子	Baba, S., Kimura, T., Ikehara, S., Honjo, K., Eshak, E. S., Sato, T., Iso, H., & Japan Environment & Children's Study Group (2020). Impact of intention and feeling toward being pregnant on postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study (JECS). <i>Archives of women's mental health</i> , 23(1), 131-137. (クリティーク西原) 修士論文相談 修士論文進捗報告
9月23日	三瓶頼子 山本祭 大堀璃子 笹川恵美	Benyamini, Y., Molcho, M. L., Dan, U., Gozlan, M., & Preis, H. (2017). Women's attitudes towards the medicalization of childbirth and their associations with planned and actual modes of birth. <i>Women and birth : journal of the Australian College of Midwives</i> , 30(5), 424-430. (クリティーク 浅井) 修士論文相談 博士論文計画 倫理教育研修
9月29日	城戸真和子	Aktas, S., & Yesilcicek Calik, K. (2015). Factors Affecting Depression During Pregnancy and the Correlation Between Social Support and Pregnancy Depression. <i>Iranian Red Crescent medical journal</i> , 17(9), e16640. (クリティーク 村上)

	若林南奈	修士論文相談
	富田綾	修士論文相談
	春名めぐみ	DOHaD 学会寺子屋 (Web 開催) セミナー予演会
	中野恵子	
	田中萌子	
	西原菜帆	
10月6日	丹家歩	Warriner, S., Crane, C., Dymond, M., & Krusche, A. (2018). An evaluation of mindfulness-based childbirth and parenting courses for pregnant women and prospective fathers/partners within the UK NHS (MBCP-4-NHS). <i>Midwifery</i> , 64, 1–10. (クリティーク 田中)
	清水咲月	博士論文計画
10月13日	西原菜帆	修士論文進捗報告
	村上芽生	修士論文進捗報告
	中野恵子	修士論文進捗報告
10月20日	富田綾	Lau, Y., Tha, P. H., Ho-Lim, S., Wong, L. Y., Lim, P. I., Citra Nurfarah, B., & Shorey, S. (2018). An analysis of the effects of intrapartum factors, neonatal characteristics, and skin-to-skin contact on early breastfeeding initiation. <i>Maternal & child nutrition</i> , 14(1), e12492. (クリティーク 清水)
	丹家歩	修士論文相談
	大堀璃子	博士論文計画
10月27日	西原菜帆	Iliadis, S. I., Axfors, C., Johansson, S., Skalkidou, A., & Mulic-Lutvica, A. (2018). Women with prolonged nausea in pregnancy have increased risk for depressive symptoms postpartum. <i>Scientific reports</i> , 8(1), 15796. (クリティーク 大堀)
	浅井百合絵	博士論文進捗報告
	田中萌子	修士論文進捗報告
11月4日	村上芽生	Yosipovitch, G., Maayan-Metzger, A., Merlob, P., & Sirota, L. (2000). Skin barrier properties in different body areas in neonates. <i>Pediatrics</i> , 106(1 Pt 1), 105–108. (クリティーク 富田)
	城戸真和子	修士論文相談
	田口菜々子	修士論文進捗報告
11月10日	浅井百合絵	Ben Ami, N., & Dar, G. (2018). What is the most effective verbal instruction for correctly contracting the pelvic floor muscles?. <i>Neurourology and urodynamics</i> , 37(8), 2904–2910. (クリティーク 丹家)
	三瓶頼子	修士論文相談
	清水咲月	博士論文進捗報告
11月17日	山本祭	修士論文相談
	富田綾	修士論文相談
	西原菜帆	修士論文進捗報告
	中野恵子	修士論文進捗報告
11月24日	若林南奈	修士論文相談
	丹家歩	修士論文相談
	田中萌子	修士論文進捗報告

	村上芽生	修士論文進捗報告
12月1日	村上芽生 西原菜帆 田口菜々子 田中萌子 中野恵子	修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
12月8日	戸瀬知実 村上芽生 西原菜帆 田中萌子 中野恵子	卒業論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
12月15日	山内里奈 村上芽生 西原菜帆 田中萌子 中野恵子	卒業論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
12月22日	村上芽生 田中萌子 中野恵子 西原菜帆	修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
1月4日	村上芽生 田中萌子 中野恵子 西原菜帆	修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
1月8日	村上芽生 田中萌子 中野恵子 西原菜帆	修士論文発表練習 修士論文発表練習 修士論文発表練習 修士論文発表練習
1月12日	村上芽生 田中萌子 中野恵子 西原菜帆	修士論文発表練習 修士論文発表練習 修士論文発表練習 修士論文発表練習
1月26日	清水咲月 山内里奈 戸瀬知実 米澤かおり	Higuchi,S.,Yoshida,S.,Minematsu,T & Ichinose,T., (2019) Detection of inflammatory cytokines by skin blotting as an objective measure of neonatal skin problems. <i>Journal of Nursing Science and Engineering</i> , 6(1) 33-40 (クリティーク城戸) 卒業論文発表練習 卒業論文発表練習 学会予行
2月1日	大堀璃子 丹家歩 富田綾	博士論文計画 修士論文計画 修士論文計画
2月9日	田口菜々子	Lundsberg, L. S., Illuzzi, J. L., Garipey, A. M., Sheth, S. S., Pettker, C.

		M., Lee, H. C., Lipkind, H. S., & Xu, X. (2017). Variation in Hospital Intrapartum Practices and Association With Cesarean Rate. <i>Journal of obstetric, gynecologic, and neonatal nursing : JOGNN</i> , 46(1), 5–17. (クリティーク山本)
	三瓶頼子	修士論文計画
	浅井百合絵	博士論文進捗
2月16日	田中萌子	Ha, A., Zhao, Y., Pham, N. M., Nguyen, C. L., Nguyen, P., Chu, T. K., Binns, C. W., & Lee, A. H. (2020). Physical activity and sedentary behaviour during pregnancy are associated with gestational weight gain in Vietnamese women. <i>Asia Pacific journal of clinical nutrition</i> , 29(1), 136–143. (クリティーク 若林)
	清水咲月	博士論文進捗
	城戸真和子	修士論文計画
2月24日	大堀璃子	Fadzil, F., Shamsuddin, K., Wan Puteh, S. E., Mohd Tamil, A., Ahmad, S., Abdul Hayi, N. S., Abdul Samad, A., Ismail, R., & Ahmad Shauki, N. I. (2018). Predictors of postpartum weight retention among urban Malaysian mothers: A prospective cohort study. <i>Obesity research & clinical practice</i> , 12(6), 493–499. (クリティーク三瓶)
	西原菜帆	英語発表
	中野恵子	英語発表
	田中萌子	英語発表
	村上芽生	英語発表
3月2日	山本祭	修士論文計画
	若林南奈	修士論文計画
	田口菜々子	修士論文進捗

(2) シフラの会

第28回シフラの会 2021年3月9日 11:00～11:50 (Zoom開催)

CochraneのMeta-analysis 国際共同研究の経験

講師：米澤かおり助教

(3) 研究プロジェクト

春名めぐみ, 佐々木敏, 松崎政代, 白石三恵, 藤田愛, 末次美子, 疋田直子,
妊娠各期の至適体重増加とそれに関連する健康行動・心理社会的要因：コホー
ト研究

2019年度～2021年度 基盤研究(B)

春名めぐみ, 笹川恵美, 米澤かおり

妊婦の概日リズムや食事時間のパターンと栄養代謝との関連の解明

2019年度～2021年度 挑戦的研究(萌芽)

笹川恵美, 春名めぐみ, 西田梨花子

就労妊婦のマイナートラブルに関する要因探索と労働生産性へ及ぼす影響の実態把握

2019年度～2020年度 日本助産学会研究助成（若手研究）

笹川恵美

エルサルバドル国立女性病院における科学的根拠に基づいた人間的出産プロジェクト

2016年度第1回 JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）

2017年12月～2022年12月

笹川恵美

エルサルバドルのパイロット病院5施設における人間的出産モデルの構築と効果の検証

文部科学省科学研究費 若手研究 2018年度～2022年度

米澤かおり

乳児の健康な皮膚バリア機能発達と皮膚常在菌叢形成に対するスキンケアの効果検討

文部科学省科学研究費 若手研究 B 2017年度～2020年度

浅井百合絵

産後女性における骨盤底障害のケアツールの開発と普及

2019年度～2022年3月 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金

米澤かおり、樋口幸、峰松健夫、春名めぐみ

スキンプロッティング法を用いた新生児の皮膚トラブル発症のメカニズム解明
研究代表者

文部科学省科学研究費 基盤研究 B 2020年度～2023年度

米澤かおり、春名めぐみ、藤原(田口)菜々子

分娩時の食事摂取と出産アウトカム、産婦の疲労感、出産満足度との関連 2020年度～2021年度 日本助産学会研究助成（若手研究）

臼井由利子

出産への思い質問票の短縮版の開発と有用性の検討

2020年度～2021年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究活動スタート支援

丹家歩、春名めぐみ、笹川恵美、米澤かおり、臼井由利子

妊婦への『出産と育児のためのマインドフルネスプログラム』のオンライン日本語版開発と効果検証

2020年度ユニバーサル財団研究助成

研究テーマ『すべての人が健康に生きる未来へ』

清水咲月

皮膚トラブル予防を目指した新しい沐浴方法の開発：前向き観察研究

2020年度～2022年3月 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金

笹川恵美, 春名めぐみ, Anderson P, Hanson J, Downer T, Dunn P. Virtual reality の助産教育に及ぼす学習効果の評価：日本・オーストラリア・ニュージーランド共同研究. ファイザーヘルスリサーチ振興財団 第29回（2020年度） 国際共同研究助成. 2020年12月～2021年11月

4. 教育活動

(1) 学部講義

1) 母性看護学 3年後期 I-1・2

目的：人間のライフサイクルの中で生殖に関与する期間のうち、妊娠、分娩、産褥各期を中心に、その基礎と健康問題のアセスメント及び看護の計画、実施、評価法を学習する。

参考書：系統看護学講座 専門24・25 母性看護学概論・各論〔1〕〔2〕
医学書院
現代の母性看護 概論 名古屋大学出版会

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
10月1日（木）	13:00～16:40	母性看護概論・妊娠期の看護	春名
10月8日（木）	13:00～16:40	分娩期の看護	丸山
10月15日（木）	13:00～16:40	新生児（正常・ハイリスク）の看護	岡本
10月22日（木）	13:00～14:45	産褥期の経過と看護	米澤
10月22日（木）	14:55～16:40	分娩期の経過（正常・異常）・産褥期の異常	永松
10月29日（木）	13:00～16:40	施設内分娩における助産師の役割	今井
11月5日（木）	13:00～16:40	自然出産と助産師の仕事	三宅
11月12日（木）	13:00～16:40	妊産褥婦，新生児の事例展開、試験	笹川
12月25日（金）	10:25～16:40	演習	笹川 米澤 臼井

非常勤講師:永松健 東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科 准教授
丸山暁子 東京大学医学部附属病院 A棟3階/MFICU 副看護師長
岡本行江 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター NICU 看護師長
今井晶子 総合母子保健センター愛育病院 看護師長
三宅はつえ もものみ助産院 出張開業助産師
日本助産師会 元茨城県支部長

2) 健康総合科学概論

対象：2年生（進学予定学生）

期日：4学期 令和2年10月12日（月）

講義題目：「妊娠・出産をめぐる社会の変化と課題」

担当：春名めぐみ

3) 救急処置 3年生 S1

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月7日（火）	14:55～16:40	救急医療と災害時の医療システム 救急看護・災害看護の概要	笹川
4月14日（火）	14:55～16:40	分娩期の看護外傷・熱傷，急性 中毒，アナフィラキシー，熱中症	米澤
4月28日（火）	14:55～16:40	救急時の観察・トリアージ	笹川 米澤
5月12日（火）	14:55～16:40	救急蘇生、AED、グループワーク	米澤
5月19日（火）	14:55～16:40	グループワーク発表	春名 笹川 米澤 白井

4) 看護学概論Ⅰ：生きることを支える科学（総合科学：人間・環境一般）

対象：駒場1・2年生

日程	時間	講義題目	担当
6月4日（木）	16:50～18:35	いのちの誕生を支える	春名
6月18日（木）	16:50～18:35	世界の健康を支えたい	笹川

5) 公共健康科学統合講義Ⅱ

対象：健康総合科学科学部生

日程：令和2年5月14日（木）

講義題目：母子の健康

担当：春名めぐみ

6) 初年次ゼミナール理科（看護科学系）

対象：1年生

日程：令和2年4月22日（水）～令和2年7月8日（水）

講義題目：スキンケア研究を通して健康科学研究手法を学ぶ

担当：米澤かおり，笹川恵美，白井由利子

(2) 学部実習

1) 母性看護学実習

対象：3年生

担当：春名めぐみ，笹川恵美，米澤かおり，白井由利子

目的：妊婦，産婦，褥婦および新生児とその家族を理解し，対象に応じた看護を実践できる知識・技術を養い，態度を培う。

期間：令和2年2月8日（月）～19日（金）（2週間）

実習施設：オンライン実習
ウパウパハウス岡本助産院

実習時間：8：00～16：00

2) 生命科学実習 I（ラボメソ）

対象：3年生

担当：春名めぐみ，笹川恵美（看護学系教室担当：生理学）

目的：人体の形態・機能を生理学的に理解し、評価する方法論を理解、考察する。評価対象として、①神経・筋骨格系、②呼吸器系と胸部、③循環器系と腹部、④外皮系、の4つをとりあげる。これらはそれぞれ独立して評価可能であると同時に、相互に深く結びついている。実習では、それらを効果的に評価する方法論として、問診・視診・触診などの観察方法と、客観的手法である「機器を用いた測定方法」を学ぶ。人を対象とした測定における留意点を考察し、取得したデータから科学的に吟味し、思考、解釈する過程を経験する。

日程：看護学系教室担当 2021年6月8日（月）Web開催

（3）大学院講義

1) 母性看護学・助産学特論 I

目的：母性看護学・助産学分野における現在のニーズ・課題，最新の研究の動向について把握し，今後の研究課題を考察するために必要な科学的思考を身につける。具体的には，根拠に基づく医療・看護と文献レビューの基本的な考え方および方法論について学ぶ。

方法：根拠に基づく医療・看護（Evidence-based Medicine・Nursing）と文献レビューの基本的な考え方および方法論について，演習を通して学ぶ。非常勤講師による講義では，最新の知見・動向をもとにディスカッションを行う。

参考書：

- Higgins JPT, Green S (editors). Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions Version 5.1.0 [updated March 2011]. The Cochrane Collaboration, 2011. Available from www.cochrane-handbook.org.
- Sterne, J. A., Egger, M., & Smith, G. D. (2001). Systematic reviews in health care: investigating and dealing with publication and other biases in meta-analysis. *BMJ: British Medical Journal*, 323(7304), 101.
- Midwifery, An Executive Summary for The Lancet's Series. *Lancet*, 2014. 20;384(9948)
- Maternal Health, An Executive Summary for The Lancet's Series. *Lancet*, 2016. 29;388(10056)
- 諏訪敏幸. 看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説. 近畿病院図書室協議会, 2013.

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月11日(木)	10:25～16:40	ライフコース疫学やエコチル・統計分析	竹内
4月16日(木)	13:00～16:40	文献レビューの基本的な考え方・方法論	春名
5月11日(月)	13:00～16:40	メタ解析の手法	大田
5月18日(月)	13:00～16:40	PICOから検索、バイアスの評価の方法	大田
5月21日(木)	13:00～16:40	助産学分野における研究課題とその動向	春名 笹川 米澤

非常勤講師：竹内文乃 慶應義塾大学医学部 講師

大田えりか 聖路加国際大学 教授

※4月9日(木)の講義は休講

2) 母性看護学・助産学特論Ⅱ

目的：母性看護・助産実践に関連する理論，モデルを学ぶとともに，研究計画の立案，論文作成に必要な知識・技術を身につける。具体的には，実際の研究例をもとに，研究の組み立て方，研究手法，論文作成方法等について学ぶ。さらに当分野におけるトピックスについての討論を通して，論理的な思考方法を学ぶ。

方法：論理的な文章を書くための基本的な考え方と方法論についての演習（トピックスについての討論），および非常勤講師による講義。

参考書：

- ・ Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams. The Craft of Research (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing) 2008.
- ・ Gary Blake, Robert W. Bly. Elements of Technical Writing (Longman; 1版) 1993.
- ・ William Strunk Jr., E. B. White. The Elements of Style, Fourth Edition. (Longman; 4版) 1999.
- ・ Thomas A. Lang 著、宮崎喜久子・中山健夫訳，トムラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド，シナジー

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
9月3日(木)	13:00～16:40	海外をフィールドとした研究手法	春名
9月10日(木)	10:25～16:40	政策につなぐ看護学・助産学研究の課題と展望	福井
9月15日(火)	13:00～16:40	論理的な文章を書くためにI	春名
9月17日(木)	13:00～16:40	論理的な文章を書くためにII	春名
10月12日(月)	13:00～16:40	Publishing ethics	米澤
10月15日(木)	10:25～12:10	助産学に関連する理論とその応用	春名

3) 助産師教育コース（助産師教育コース課程履修者必修）

a. 助産学I 修士課程1年前期

目的：助産学の基本概念および助産師の役割と責務、倫理的課題を理解し、専門的自律能力を身に付け、国内外におけるこれからの助産師の役割を考える視点を養う。さらに助産学研究の意義や今後の方向性について考察する力を養う。

参考書：

- ・助産学講座 1. 助産学概論，医学書院
- ・助産学講座 2. 母子の基礎科学，医学書院
- ・プリンシプル産科婦人科学 2. メジカルビュー社；改訂版

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月6日（金）	13:00～16:40	概論 I 助産学の基本的概念・理念と助産の歴史・今後の動向	春名
4月13日（月）	13:00～14:45	概論 II 助産師の役割と機能および責務	春名

※下記は7月・9月開講のM2講義と合同

性と生殖I：正常月経周期・無月経・更年期ヘルスケア・子宮内膜症
性と生殖II：卵の成熟・精子の発生・受精・不妊症・生殖補助医療
産科学I：妊娠の診断・正常な妊娠経過・胎児発育・妊娠に伴う心理社会的変化
産科学II：妊娠期の異常・診断・治療
産科学III：正常分娩・産褥経過
産科学IV：分娩期・産褥期の異常・診断・治療

b. 助産学II 修士課程1年前期

目的：周産期および更年期において、助産師が担う重要な相談・教育・援助活動をするための知識・技術を養う。また助産学が対象とする女性の健康増進への理解を深めるとともに、臨床課題を見つけ、科学的根拠に基づく助産ケアを考える力を養う。さらに助産ケアの有効性やその評価方法を考慮した計画立案ができる力を養う。

参考書：

- ・First, M., Spitzer, R. L., Gibbon, M. and Williams, J. B. W.: Structured Clinical Interview for DSM-IV Axis I Disorders. 高橋三郎（監修）北村俊則，岡野禎治（訳）精神科診断面接マニュアル [第2版] . 日本評論社，東京，2010.
- ・北村俊則：だれでもできる精神科診断用構造化面接：SCID 入門，北村メンタルヘルス研究所，2013.
- ・北村俊則（編）：事例で読み解く周産期メンタルヘルスケアの理論：産後うつ病発症のメカニズムの理解のために．医学書院，東京，2007.
- ・北村俊則：周産期メンタルヘルススタッフのための心理介入教本．北村メ

- ンタルヘルス研究所, 2013.
- ・村上明美 (編) : 事例から学ぶ 産科医療補償制度と助産リスクマネジメント. 医歯薬出版, 2018.

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月27日(月)	13:00~14:45	婦人科・不妊治療看護	米澤
6月3日(水)	13:00~16:40	地域における家族形成期の助産師の役割 (DV/虐待予防)	春名 白井
6月15日(月)	13:00~18:35	助産における医療安全	村上
6月25日(木)	13:00~16:40	最新の女性医療・疾病予防(基礎知識)	対馬
6月25日(木)	16:50~18:35	最新の女性医療・疾病予防(症例検討)	対馬
9月1日(火)	9:30~14:30	遺伝相談・不妊治療・出生前診断における助産ケア(基礎知識・事例検討)	小笹
9月16日(月)	13:00~16:40	周産期メンタルヘルス(心理的援助技法) I	白井

非常勤講師：村上明美 神奈川県立保健福祉大学 教授
 対馬ルリ子 女性ライフクリニック 院長
 小笹由香 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部 看護師長

c. 助産学Ⅲ 修士課程1年前期

目的：産褥期・育児期を中心とした褥婦および新生児・乳児の健康状態をアセスメントするために、正常及びハイリスク妊産褥婦・新生児・乳児についての基礎的な知識を理解するとともに、健康状態をアセスメントし、母子や家族への適切な助産ケアについて考える。また、ケアの科学的根拠についても把握し、期待される効果について予測するとともに、改善のために必要な研究的アプローチについても考察できる力を養う。

参考書：

- ・助産学講座 6. 助産診断・技術学Ⅱ[1], 医学書院
- ・助産学講座 8. 助産診断・技術学Ⅱ[3], 医学書院
- ・プリンシプル産科婦人科学 2. メジカルビュー社; 改訂版
- ・仁志田博司. 新生児学入門、第3版、医学書院
- ・編) 厚生労働科学研究 妊娠出産ガイドライン研究班, 科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013年版(第1版), 金原出版.

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月8日(水)	13:00～16:40	正常妊産婦のアセスメントとケア	米澤
4月27日(月)	14:55～16:40	正常妊婦のアセスメントと指導計画	米澤
5月9日(土)	10:25～16:40	授乳期の援助	井村
5月13日(水)	13:00～16:40	産褥期のアセスメントと援助技術	臼井
6月17日(月)	13:00～16:40	産褥期・乳児期のアセスメントと援助技術	米澤
6月22日(月)	13:00～16:40	周産期メンタルヘルス(心理的援助技法)Ⅰ	安田
7月1日(水)	13:00～14:45	ハイリスク妊婦のアセスメントとケア	矢神
2月22日(月)	13:00～16:40	周産期メンタルヘルス(心理的援助技法)Ⅱ	安田

非常勤講師：井村真澄 日本赤十字看護大学 教授
 矢神智美 東京大学医学部附属病院女性診療科・産科病棟
 主任副看護師長
 安田貴昭 埼玉医科大学総合医療センター 講師

d. 助産学Ⅳ 修士課程1年前期

目的：分娩期を中心とした産婦・褥婦，および胎児・新生児の健康状態を診断し，適切なケア技術を実施するための基礎的な知識・技術を学ぶ。さらに，産婦の安全，安心，快適，満足な出産の実現に向けたケアの創造と，それを実施できる知識と技術を養う。また分娩時ケアを評価・改善するために必要な方法・技術について考察する力を養う。

参考書：

- ・助産学講座 3. 母子の健康科学, 医学書院
- ・助産学講座 7. 助産診断・技術学Ⅱ[2], 医学書院
- ・助産学講座 8. 助産診断・技術学Ⅱ[3], 医学書院
- ・基礎から学ぶ産婦人科超音波診断, 東京医学社
- ・助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 医学書院

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月15日(水)	13:00～16:40	分娩期アセスメント：経過の予測診断技術	笹川
7月1日(木)	8:30～10:25	分娩介助技術(1)：直接介助法・間接介助法	笹川
7月1日(木)	10:25～12:10	演習①：直接介助法・間接介助法	笹川 米澤

7月1日(木)	14:55~16:40	演習②：分娩介助デモンストレーション	笹川 白井
7月6日(月)	13:00~14:45	分娩介助技術(3)：異常分娩・産科処置	米澤
7月8日(水)	13:00~20:30	分娩介助技術, 演習：フリースタイル分娩	中根
7月15日(水)	14:55~18:55	分娩介助技術 演習③：超音波診断技術	瀬山
9月24日(木)	10:25~12:10	分娩介助技術(3)：臨地での分娩介助法	矢神

非常勤講師：矢神智美 東京大学医学部附属病院女性診療科・産科病棟
主任副看護師長

瀬山貴博 東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科 助教

中根直子 日本赤十字医療センター 副看護部長

e. 助産学V 修士課程1年前期

目的：妊娠・分娩・産褥期および新生児期における助産診断・援助技術について、その理論的裏付けを考えるとともに、実際に援助できる技術を身に付ける。有効な助産技術について評価・改善する方法についても考察する。さらに緊急時の対応についても学び、継続学習につなげられる力を養う。

参考書：

- ・助産学講座 4. 母子の心理・社会学, 医学書院
- ・助産学講座 5. 助産診断・技術学I, 医学書院
- ・助産学講座 6. 助産診断・技術学II[1], 医学書院
- ・助産学講座 7. 助産診断・技術学II[2], 医学書院
- ・助産学講座 8. 助産診断・技術学II[3], 医学書院
- ・仁志田博司. 新生児学入門, 第3版, 医学書院
- ・日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト
改訂第3版 メジカルビュー社

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
5月14日(木)	13:00~16:40	正常新生児の生理と観察のポイント	米澤
5月20日(水)	14:55~16:40	正常・ハイリスク新生児の観察とケアのポイント	米澤
5月25日(月)	13:00~16:40	事例による助産計画の展開	笹川
6月10日(水)	13:00~16:40	分娩期のケア：PICOによる根拠に基づくケア	笹川
7月13日(月)	13:00~16:40	妊婦・褥婦のフィジカルアセスメント	笹川 米澤 白井
8月31日(月)	13:00~16:40	新生児蘇生技術 (NCPR Bコース)	天願

8月31日(月)	10:25~12:10	NICUでの児と家族の看護	内藤
9月25日(金)	13:00~16:40	会陰切開・縫合術・産科救急	笹川 米澤

非常勤講師：天願愛 東京大学医学部附属病院 NICU
内藤梨帆 同上

f. 助産学VI 修士課程1年前期

目的：助産業務を安全に・円滑に遂行するために必要な助産管理・運営の原理と技法、法的側面についての知識を深め、助産師の社会的役割についての責務を理解する。さらに理論やモデルを踏まえ、助産師の様々な活動の評価、改善のための方策について学ぶ。

参考書：

- ・編集) 厚生労働科学研究 妊娠出産ガイドライン研究班, 科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013年版(第1版), 金原出版, 東京.
- ・日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会, 産婦人科診療ガイドライン 2017, 日本産婦人科学会出版
- ・助産学講座 10 助産管理 医学書院
- ・日本助産師会刊 「助産所開業マニュアル」
- ・メディカ出版 「周産期管理・看護マニュアルー正常産からハイリスクまで」
- ・愛育病院 「マタニティノート」
- ・藤森敬也. 「胎児心拍数モニタリング講座」改訂2版, メディカ出版
- ・村田雄二(編著). 「周産期の生理学」メディカ出版

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
4月20日(月)	13:00~16:40	クリニカルガイドライン1:分娩管理	米澤
5月27日(水)	13:00~14:45	クリニカルガイドライン2:妊娠出産	臼井
6月11日(木)	15:15~17:00	助産管理の基本概念とプロセス, 要点と特徴	春名
12月23日(水)	11:00~12:00	病院における助産管理	石川
2月1日(月)	13:00~16:40	助産院における助産管理	岡本

非常勤講師：石川紀子 総合母子保健センター愛育病院 看護部長
岡本登美子 ウパウパハウス岡本助産院 院長

(4) 大学院実習

1) 助産師教育コース(助産師教育コース課程履修者必修)

a. 助産学管理実習 修士課程1年夏期

担当：春名めぐみ, 笹川恵美, 米澤かおり, 臼井由利子

目的：助産院および病院において助産業務管理の実際を学び、それぞれの施設における助産管理・運営、ケア内容や助産師の役割を比較・検討する。さらに、ケアの受け手から求められるサービス提供のあり方、ケアの受け手とのエンパワーメント、他職種との連携について、文献等を用いて考察し、理論的に考える視点を養う。

期間：令和2年12月21・23日、2月1～3日

実習施設：総合母子保健センター愛育病院

ウパウパハウス岡本助産院

実習時間：8：00～16：00

b. 助産学実践実習Ⅰ 修士課程1年夏期～後期

担当：春名めぐみ、笹川恵美、米澤かおり、臼井由利子

目的：妊婦外来・助産師外来において、妊娠の診断および妊娠経過を把握でき、妊娠期を安全に継続するための個別的な助産ケアを計画、実践する方法を学ぶ。また、対象の背景や分娩・産褥・新生児期の経過をふまえ、退院後の生活を視野にいたした予防的な助産ケアを実践、評価する能力を養う。さらに、家庭訪問等の継続的なケアの実施を通し、母子保健医療チームのあり方や、母子とその家族がより健康な経過をたどるための支援方法を学ぶ。症例を通して、対象理解を深め、研究課題を考察していく力を養う。

期間：産褥継続実習 令和2年7月27日～令和3年3月26日

産科外来実習 令和2年10月19日～11月6日、
令和2年9月18日・23日

助産院の妊婦健診・産後ケア

令和3年1月18日～1月28日 うち1週間

実習施設：東京大学医学部附属病院

(女性診療科・産科病棟、女性診療科・産科外来)

みづき助産院

実習時間：8：15～16：00 (外来8：30～)

c. 助産学実践実習Ⅱ 修士課程1年後期

担当：春名めぐみ、笹川恵美、米澤かおり、臼井由利子、谷本美保子、
宮本裕子、橋本麻衣

目的：分娩介助実習において、分娩期を中心とした産婦・褥婦、および胎児・新生児の健康状態をアセスメントし、適切な助産技術を実施するための基礎的な知識・技術・態度を習得し、実践する。さらに、安全、安心、快適、満足なお産の実現に向けた助産ケアの創造のために必要な知識・技術を習得し、継続学習につなげる。

期間：分娩介助実習

病院実習 令和2年8月10日～8月21日

令和2年10月19日～12月25日 うち10週間

助産院実習 令和2年10月2日～10月14日 うち1週間

実習施設：東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科病棟
総合母子保健センター愛育病院 LDR 室
矢島助産院

(5) 修士論文

田中萌子

「Sedentary behavior during pregnancy and its related factors:
A cross-sectional observational study in Japan」(妊婦の座位行動とその関連要
因：日本における横断観察研究)

中野恵子

「Effects of overnight fasting duration and meal frequency on glucose and lipid
metabolism during pregnancy: A cross-sectional study」(妊娠中の夜間絶食時間
と食事回数の糖代謝および脂質代謝への影響：横断研究)

西原菜帆

「Associated factors in and dietary intake of women with nausea and vomiting during
the second trimester of pregnancy: A cross-sectional study」(妊娠中期のつわりの
関連要因と食事摂取の実態: 横断研究)

村上芽生

「Related factors for newborns' skin barrier functions」(新生児皮膚バリア機能
の関連要因)

5. 学内外の活動

(1) 学内の活動・役割

春名めぐみ

化学物質管理担当者	平成 15 年 4 月～
女性休養室管理担当者	平成 21 年 10 月～
男女共同参画委員会委員	平成 27 年 4 月～
医学部倫理委員会 委員	平成 27 年 4 月～
健康総合科学科 教育委員	平成 28 年 4 月～
教職課程・学芸員等部会 委員	平成 29 年 4 月～
教務委員会 委員	令和元年 4 月～
入試実施委員会 委員	令和元年 4 月～

笹川恵美

倫理指導委員	平成 27 年 4 月～
--------	--------------

(2) 学外の活動・役割

春名めぐみ

日本母性衛生学会・総務部幹事・専任査読者 編集委員	平成 15 年 12 月～ 平成 27 年 9 月～
日本周産期メンタルヘルス学会 理事	平成 22 年 4 月～
日本助産評価機構 第三者教育評価 評価員	平成 27 年 6 月～
日本看護科学学会 和文誌編集長	令和元年 4 月～
Nursing and Health Sciences Reviewer	平成 30 年～
International advisory and review board member of Korean Society of Women Health Nursing	令和元年～
日本助産学会 理事 学術振興委員会 委員長	令和 2 年～
日本家族療法学会第 37 回大会 実行委員	令和 2 年

笹川恵美

日本助産学会・専任査読者	平成 29 年 2 月～
日本看護科学学会・査読者	平成 30 年 2 月～
全国助産師教育協議会・国際関連活動委員会 委員	平成 29 年 7 月～
日本助産学会・助産ガイドライン解説版 (妊産婦・家族向け) ワーキンググループ	令和 3 年 2 月～
JICA 草の根技術協力事業 エルサルバドル 国立女性病院における科学的根拠に基づいた 人間的出産プロジェクト プロジェクトマネージャー	平成 29 年 12 月～
日本家族療法学会第 37 回大会 実行委員	令和 2 年
日本健康学会第 85 回総会 実行委員	令和 2 年

米澤かおり

日本母性衛生学会 査読委員	平成 29 年 9 月～
日本助産学会 編集委員	平成 30 年 4 月～
日本看護科学学会 和文誌専任査読委員	令和元年 10 月～
日本家族療法学会第 37 回大会 実行委員	令和 2 年

臼井由利子

日本助産学会 学術振興委員	令和 2 年～
北村メンタルヘルス研究所 倫理委員会委員	令和 2 年～
日本家族療法学会第 37 回大会 実行委員	令和 2 年

(3) その他(学内外における講義・講演など)

笹川恵美

「助産学特論 X」講師

講義題目：国際母子保健活動の実際(中南米)

顧みられない熱帯病と母子保健

国際医療福祉大学大学院 2020 年 5 月 22 日(金)

笹川恵美

「ウーマンズヘルス特論V」講師

講義題目：助産学特論III 地域母子保健学

東京女子医科大学 2020年9月30日（水）

藤本明洋・米澤かおり

「アトピーから考える皮膚の健康」

2020年度「高校生のための東京大学オープンキャンパス」

オンライン 2021年1月6日~1月19日

春名めぐみ

「論文投稿と査読のコツ」（講師）

大手前大学国際看護学部FD研修

2021年2月17日（Web開催）

6. 教室日誌

2020年 4月1日	看護系教員顔合わせ
4月2日	母性看護学・助産学教室 顔合わせ・新入生ガイダンス 助産師教育コース ガイダンス
4月11日～5月21日	母性看護学・助産学特論I 講義
4月6日～9月11日	助産学I 講義
4月8日～2月22日	助産学III 講義
4月20日～2月1日	助産学VI 講義
4月27日～9月16日	助産学II 講義
5月9日	健康科学・看護学専攻 入試説明会
5月15日～9月24日	助産学IV 講義・演習
5月14日	令和2年度第1回病院看護部および健康科学・看護学科看護系教員連絡会議, 東大病院実習打ち合わせ
5月14日～9月25日	助産学V 講義
7月27日～7月31日	助産学実践実習I・II (東大病院)
8月11日～8月21日	助産学実践実習II (愛育病院)
9月3日～10月15日	母性看護学・助産学特論II 講義
10月1日～11月12日	母性看護学 講義
10月2日～10月14日	助産学実践実習II (矢島助産院)
10月19日～12月4日	助産学実践実習II (東大病院)
12月4日	助産学実践実習II 実習報告会 (東大病院)
12月7日～12月18日	助産学実践実習II (愛育病院)
12月11日	神奈川県助産師会 教務部会
12月10日	令和2年度第2回病院看護部および健康科学・看護学科看護系教員連絡会議
12月23日	助産学実践実習II 実習報告会 (愛育病院)
12月21日～2月3日	助産学管理実習

	12月25日	母性看護学学内演習
	1月18日～1月28日	助産学実践実習I（みづき助産院）
	1月18日～1月19日	修士論文発表会
	2月2日	卒業論文発表会
	2月5日	卒論ガイダンス
	2月8日～2月19日	母性看護学実習
2021年	2月14日	GNRC 記念シンポジウム
	2月16日	第3回愛育病院5校合同会議
	3月2日	母性看護学・助産学教室 送別会
	3月8日	専攻看護系 博士修了生 発表会
	3月15日	専攻看護系送別会
	3月18日	健康総合科学科 卒業式・謝恩会
	3月19日	健康科学・看護学専攻 学位授与式

7. 教室員名簿

<2020年度>

職名	氏名	勤務先 名称・住所
准教授, 教授 2012.4.1 ~ 2019.12.31, 2020.1.1~	春名 めぐみ	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 母性看護学・助産学分野
助教 2015.4.1~	笹川 恵美	同 上
助教 2016.5.16~	米澤 かおり	同 上
助教 2020.4.1~	臼井 由利子	同 上
非常勤講師 (大学院/助産学) 2020.4~	石川 紀子	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育病院 〒105-8321 東京都港区芝浦 1-16-10
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2018.4~	今井 晶子	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育病院 〒105-8321 東京都港区芝浦 1-16-10
非常勤講師 (大学院/助産学) 2006.4~	井村 真澄	日本赤十字看護大学母性看護学、大学院国際保健助産学 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3
非常勤講師 (大学院) 2018.4~	大田 えりか	聖路加国際大学 看護学部 〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1
非常勤講師 (大学院/助産学) 2018.4~	岡本 登美子	ウパウパハウス岡本助産院 〒211-0041 神奈川県川崎市中原区下小田中 1-6-1
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2018.4~	岡本 行江	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 〒350-8550 川越市鴨田 1981 番地
非常勤講師 (大学院/助産学) 2013.4~	小笹 由香	東京医科歯科大学医学部附属病院 〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
非常勤講師 (学部/救急処置) 2017.4	佐藤 智加	東京大学医学部附属病院 救急看護認定看護師
非常勤講師 (大学院/助産学) 2020.4~	瀬山 貴博	東京大学 医学部 産科婦人科学教室
非常勤講師 (大学院) 2019.4~	竹内 文乃	慶應義塾大学 医学部 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35
非常勤講師 (大学院/助産学) 2005.4~	対馬 ルリ子	医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス 対馬ルリ子女性ライフクリニック 銀座 〒104-0061 東京都中央区銀座 2-6-5 7階
非常勤講師 (大学院/助産学) 2020.4~	天願 愛	東京大学医学部附属病院 NICU
非常勤講師 (大学院/助産学) 2019.4~	内藤 梨帆	東京大学医学部附属病院 NICU

非常勤講師（大学院/助産学） 2005.4～	中根 直子	日本赤十字社医療センター 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-22
非常勤講師（学部/母性看護学） 2013.4～	永松 健	東京大学 医学部 産科婦人科学教室
非常勤講師（大学院） 2018.4～	福井 トシ子	公益社団法人 日本看護協会 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
非常勤講師（学部/母性看護学） 2020.4～	丸山 暁子	東京大学医学附属病院 A 棟 3 階/MFICU
非常勤講師（学部/母性看護学） 2002.10～	三宅 はつえ	もものみ助産院（出張開業） 〒306-0023 茨城県古河市本町 4-7-1-2-503
非常勤講師（大学院/助産学） 2019.4～	村上 明美	神奈川県立保健福祉大学 〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町 1-10-1
非常勤講師（大学院/助産学） 2020.4～	矢神 智美	東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科
非常勤講師（大学院/助産学） 2019.4～	安田 貴昭	埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック 〒350-8550 川越市鴨田 1981 番地
大学院生（博士 4 年） 2014.4～	浅井 百合絵	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 母性看護学・助産学分野
大学院生（博士 2 年） 2016.4～	清水 咲月	同 上
大学院生（博士 1 年） 2016.4～	大堀 璃子	同 上
大学院生（休学中） 2017.4～	瀬戸口 舞嘉	同 上
大学院生（休学中） 2017.4～	中西 愛海	同 上
大学院生（休学中） 2018.4～	瀬戸 菜月	同 上
大学院生（休学中） 2018.4～	横山 萌莉	同 上
大学院生（修士 2 年） 2019.4～	田口 菜々子	同 上
大学院生（修士 2 年） 2019.4～	田中 萌子	同 上
大学院生（修士 2 年） 2019.4～	中野 恵子	同 上
大学院生（修士 2 年） 2019.4～	西原 菜帆	同 上
大学院生（修士 2 年） 2019.4～2021.3	村上 芽生	同 上
大学院生（修士 1 年） 2020.4～	城戸 真和子	同 上
大学院生（修士 1 年）	三瓶 頼子	同 上

2020.4～			
大学院生（修士1年）	丹家 歩	同 上	
2020.4～			
大学院生（修士1年）	富田 綾	同 上	
2020.4～			
大学院生（修士1年）	山本 祭	同 上	
2020.4～			
大学院生（修士1年）	若林 南奈	同 上	
2020.4～			
大学院生（休学中）	松原 里奈	同 上	
2019.4～			
客員研究員	堀田 久美	同 上	
2012.4～			
客員研究員	白石 三恵	同 上	
2015.4～			
客員研究員	松崎 政代	同 上	
2017.4～			
客員研究員	島田 三恵子	同 上	
2019.4～			
客員研究員	疋田 直子	同 上	
2020.4～			
事務補佐員	渡部 由美	東京大学大学院 医学系研究科	
2006.7～		健康科学・看護学専攻,母性看護学・助産学分野	
学術支援職員（助産実習指 導員）	谷本 美保子	同 上	
2019.4～2021.3			
学術支援職員（助産実習指 導員）	宮本 裕子	同 上	
2019.4～2021.3			
学術支援職員（助産実習指 導員）	橋本 麻衣	同 上	
2020.4～2021.3			

母性看護学・助産学分野年報 第 19 号
発行年月日： 2021 年 3 月 31 日
発行責任者： 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-
3-1
東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻
母性看護学・助産学分野
春名めぐみ
Tel & Fax: 03-5841-3396
